

無垢な人

深見 祥弘

奨励者紹介〔ふかみ・よしひろ〕

日本キリスト教団近江八幡教会牧師

またある日、主の前に神の使いたちが集まり、サタンも来て、主の前に進み出た。主はサタンに言われた。

「お前はどこから来た。」

「地上を巡回しておりました。ほうぼうを歩きまわっていました」とサタンは答えた。

主はサタンに言われた。

「お前はわたしの僕ヨブに気づいたか。地上に彼ほどの者はいまい。無垢な正しい人で、神を畏れ、悪を避けて生きている。お前は理由もなく、わたしを唆して彼を破滅させようとしたが、彼はどこまでも無垢だ。」

サタンは答えた。

「皮には皮を、と申します。まして命のためには全財産を差し出すものです。手を伸ばして彼の骨と肉に触れてごらん下さい。面と向かってあなたを呪うにちがいありません。」

主はサタンに言われた。

「それでは、彼をお前のいいようにするがよい。ただし、命だけは奪うな。」

サタンは主の前から出て行った。サタンはヨブに手を下し、頭のとっぺんから足の裏までひどい皮膚病にかからせた。ヨブは灰の中に座り、素焼きのかけらで体中をかきむしった。

彼の妻は、

「どこまでも無垢でいるのですか。神を呪って、死ぬ方がましでしょう」と言ったが、ヨブは答えた。

「お前まで愚かなことを言うのか。わたしたちは、神から幸福をいただいたのだから、不幸もいただくではないか。」

このようになって、彼は唇をもって罪を犯すことをしなかった。

(ヨブ記 2章1—10節)

「なぜ、わたしが」と問う時

新年度を迎え、早や半月が過ぎました。ここには、新入生の皆さんもおられることでしょう。わたしも48年前、一人の無垢な新入生としてここにおりました。その無垢なわたしが、そうでないわたしに変えられたのは、さまざまな理不尽を見たり経験してきたことによるのかもしれませんが。

最近では、ロシアによるウクライナ侵略やトルコ・シリア大地震をあげることができます。それまでの平和な日常が一夜にして取り去られ、大切な家族や友人、家や財産を失ってしまうのです。わたしたちも地震や津波、風水害によって被災したり、犯罪や事故に巻き込まれたり、勤め先が倒産したり、病気になっ

たりと、なにも悪いことをしていないのに「なぜ、わたしが」と問うような場面に遭遇することもあります。どうしてこんなことがおこるのか。それは悪が引き起こすことなのか、自然のなすことで仕方のないことなのか。なぜわたしが被災したのか。それは神が起こしたことなのか、神の関わりのないこととしておこったのか、それとも神は無力なのか。ヨブ記は、そうした問いに、何らかの光を与えてくれるかもしれません。

ヨブ記とは

先ほど読まれた聖書の言葉は、旧約聖書・ヨブ記です。1章1節に「ウツの地にヨブという人がいた。無垢な正しい人で、神を畏れ、悪を避けて生きていた。」とあります。「ウツ」の地は、イスラエルの地より見て東方の地ですが、それがどこなのかはわかりません。「ヨブ」の名の意味は、「敵」です。降りかかった災いのゆえに、神に敵対した者という意味があります。「無垢な正しい人、神を畏れ、悪を避けて生きていた」ヨブが、どうして神に敵対するものになったのか、お話してみたいと思います。

ヨブ記の著者は、ペルシャ時代、紀元前5世紀中ごろパレスチナに暮らしたユダヤ人です。著者はバビロン捕囚を思い起こしています。バビロン捕囚とは、BC597年・587年、南王国(ユダ王国)が新バビロニア帝国に征服され、人々がバビロンに連行されて捕囚となった出来事です。BC538年、ペルシャ王キュロス二世により解放されました。「無垢な正しい人」とは、律法(神の定め)に忠実であったということですが、そうであった人もそうでない人も、捕囚時には家も財産も町も国も、すべてを失う悲惨な体験をしました。人々はこの体験によって、神がなぜこのようなことを起こされるのかとの問いを持ちました。特に「無垢な正しい人」は、「なぜ」との思いを強く持ったのです。ヨブは、そのような人の代表として描かれていますし、また「なぜ」との問いに向き合い、ついには神に敵対する人となるまで問い続けた人でありました。

無垢な人ヨブへの試み

ヨブは、7人の息子と3人の娘、羊7千匹、らくだ3千頭、牛5百くびき、雌ろば5百頭の財産を持ち、非常に多くの使用人がいる、東の国一番の富豪でした。息子たちはそれぞれ家を持ち、月曜は長男の家、火曜は次男の家と、一週間を一巡りとして毎日宴会が行われ、そこには兄弟姉妹皆が集まりました。ヨブは、宴会が一巡りする火曜の朝に、息子たちを呼び寄せて聖別し、罪の赦しを願う7つのいけにえを神にささげました。このように、ヨブとその家族は、物心ともに恵まれた生活をしていました。

ある日、神の前に神の使いたちが集まり、天上で会議が行われました。そこには、サタンもいました。サタンの役割は、地上を巡回し罪を見つけると、神に告訴することでした。神がサタンに「お前はわたしの僕ヨブに気づいたか。地上に彼ほどの者はいまい。」(同 1章8節)と言うと、サタンは「ヨブが、利益もないのに神を敬うでしょうか。(中略)御手を伸ばして彼の財産に触れてごらん下さい。面と向かってあなたを呪うにちがいません。」(同 9~11節)と答えましたのでそれをゆるしました。ヨブには1日のうちに4つの災いが臨みました。シェバ人によって牛とろばが略奪され、牧童たちは殺されました。天から火がくだって羊と羊飼いが焼け死にました。カルデヤ人によってらくだが奪われ、牧童たちが殺されました。そして、長男の家に集まっていた7人の息子と3人の娘は、大風により家が倒れ死んでしまいました。この知らせが届くとヨブは、衣を裂き、髪をそり落とし、地にひれ伏して、「わたしは裸で母の胎を出た。裸でそこに帰ろう。主は与え、主は奪う。主の御名はほめたたえられよ。」(同 21節)と主を賛美いたしました。

再び天上で会議が行われ、サタンも来ました。神がサタンに「お前はわたしの僕ヨブに気づいたか。地上に彼ほどの者はいまい。(中略)お前は理由もなく、わたしを唆して彼を破滅させようとしたが、彼はどこまでも無垢だ。」(同 2章3節)と言うと、サタンは「皮には皮を、と申します。(中略)手を伸ばして彼の骨と肉に触れてごらん下さい。面と向かってあなたを呪うにちがいません。」(同 2章4～5節)と答えました。人は皮で包まれているが、人の心も何が隠されているかわからない、と言ったのです。神は「命だけは奪うな」(同 6節)と言ってそれをゆるしました。サタンがヨブに手を下したので、全身ひどい皮膚病にかかりました。ヨブは皮膚病により宗教上「汚れた者」とされ、共同体を追われてゴミ捨て場を住まいとし、灰の中に座り捨てられていた素焼きのかけらで体をかきむしったのでした。ヨブの妻は「どこまでも無垢でいるのですか。神を呪って、死ぬ方がましでしょう」(同 9節)と言いました。彼女はヨブに対して、いつまで殻をかぶっているのか、無垢な自分がなぜこんなことになるのかと心の内の思いを神にぶつけて楽になりなさい。たとえ死ぬことになっても、彼女は今よりはましでしょう、と問いかけました。しかしヨブは「お前まで愚かなことを言うのか。わたしたちは、神から幸福をいただいたのだから、不幸もいただくのではないか。」(同 10節)と妻をいさめました。

ヨブのために神がおこったこと

ヨブ記を理解する上で大切なことは、ヨブの苦難の由来が、天上における神とサタンとの会話にあることです。災いの原因が天上の会議にあり、しかも神は一貫してヨブが「無垢な正しい人で、神を畏れ、悪を避けて生きている。」と認めています。これに対してサタンは、ヨブの信仰が自分の利益のためであり、財産や家族を取り去るならば、また彼に病を与えるならば、無垢な正しい人も神を呪うにちがいないと主張しました。後で登場するヨブの友人たち(エリバズ、ビルダデ、ゾバル)はヨブに災いの原因がある(因果応報)と主張し、若き哲学者エリフはそれが神の教育的措置であると主張しました。ヨブは彼らとの対話によってさらなる誘惑や苦しみを経験し、やがてヨブは神の敵となりました。神は敵となったヨブに対し、「お前はわたしが定めたことを否定し／自分を無罪とするために／わたしを有罪とさえするのか。」(同 40章8節)と言われます。ヨブが神の理不尽を訴え、自分の無罪と神の有罪を主張していると述べているのです。

神はヨブのこの訴えを受け入れ、後に罪のない我が子イエスを有罪として十字架にかけ、苦悩する人々が無垢な人、御子イエスを信じることによって、救いを実現する道を開いてくださいます。

無垢な人イエスを知ろう

今日でも私たちは、襲い来る災いの意味を理解することができません。因果応報や教育的措置の考えでは、受け止められない現実に直面するからです。そうした中、ヨブ記はそこに神が関わっておられることを示しています。また神が人に悪を働いてそれをしているのではないことを示しています。さらに神は、「お前はわたしの僕に気づいたか。地上に彼ほどの者はいまい」と言ってくださるのです。わたしという存在を認め、愛してくださっているのです。愛のゆえに神が行われたことは、神の御子イエスを人々のところに遣わし、ヨブの訴えのとおり、罪のない我が子イエスを有罪とされるのです。苦しみにある人は、まことに無垢な人であるイエスを深く知り、委ね、信じることで、どんなに苦しみや理不尽を経験しても、それを乗り

越える力をいただくことができるのです。どうぞ、ここにおられる皆さんが、チャペル・アワーにおいて語られる無垢なイエス、このお方を深く知っていただき、苦難に遭遇したときも、そのことに向きあえる皆さんであっていただきたいと願います。

2023年4月19日 今出川水曜チャペル・アワー「奨励」記録